

テーマ:なのはな組のお店屋さん

品川区立西五反田第二保育園【品川区】 対象年齢 5歳児

テーマを設定の理由

1人の子どもが段ボールを使い、本物そっくりなジュースが出てくる自動販売機を作ったことをきっかけにクラスの中でお店屋さんづくりが盛んになった。お店だけでなく、販売に関わるレジ台作りや、お店に関わる機械・お金の流通にも興味を示すようになった。

活動①～ グループを決める ～

ねらい:やりたいお店・内容について子ども達が互いに意見を出し合い、グループでの話し合いを繰り返すことで、仲間意識も芽生えるようにする

用意した環境

- 準備したもの:ホワイトボード、ペン、看板など
- 子どもたちのアイデアや考えを箇条書きで書き、大まかに分けてまとめる

探求心を実践する

- 活動内容
- ・クラス全員が集まり、やりたいお店やなりきりたい人物像を挙げていった。
- 子どもたちの様子
- ・友達の意見を聞いて、アイデアが広がり、これから楽しいことが始まるという気持ちが製作したいという気持ちに繋がっていった。
- ・作ろうとしているものに対し、材料は何が必要なのかを考えるようになった。

保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちの意見やアイデアを受け止め、尊重しながら次の考えや活動に繋がるきっかけを作るようにした。また、期待を感じられるように言葉かけを工夫した。
- ・アイデアを出した子だけでなく、友達の意見を聞いたり、認めたりする子にもその気持ちや態度について触れて、良さを具体的な言葉で認めるようにした。

活動スケジュール(5歳児クラス)

活動内容		時間/回	人数/回
①	グループを決めて必要なものを思い描き、話し合う	1/2	24/2
②	イメージを広げ、製作を始める	1/8	24/8
③	クラスでお店さんごっこをする	1/1	24/1
④	異年齢クラスを招待し、開店する	0.5/2	45/2



活動② ～ イメージを広げ、製作を始める ～

ねらい：子どもたちがイメージしたもの(食べ物・機械(レジなど))が実現できる
素材・教材を用意し、感じたまま想像したことを表現し、構造を知る

用意した環境

- 準備したもの：段ボール・紙粘土・毛糸、綿、はさみ、マジックペンなど身近なもので様々なものに見立て想像が豊かになるように、様々な大きさや素材を用意し、製作する意欲を引き出した。

探求活動を実践する

●活動内容

- ・グループに分かれてお店に必要とする食材や機械を製作した。

●子どもたちの様子

- ・多様な教材を使って作りたいものを夢中になって作っていた。
迷いがあると保育者やグループの友達に意見を求めている。
- ・イメージを基に作ってみるが、想像と異なると原因を考えたり、作り方を変えてみたりするなど、試行錯誤しながら製作していた。
- ・役割分担をして製作を進める中で、友達のアイデアを認めたり、協力して一緒に作ろうとしたりしていた。

保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちがイメージを実現するにはどのようにすると良いか友達と協力しながら探求する姿を見守った。話し合いが行き詰ったときには、タイミングを図って、新たな視点のきっかけとなる言葉を掛けるようにした。
- ・グループでの話し合いの中で「答え」が見つかった時の子ども同士での顔を見せ合う姿や楽しさを共有する姿から、グループ活動の良さを改めて感じた。子どもたちも自分達で活動を進めていく面白さを感じていることが窺えた。



活動③ ～ クラスでお店屋さんごっこをする ～

ねらい：同じグループ内で2グループに分け、前半と後半に分かれて店員とお客さんになり、自分たちで完成したお店の良さとお客さんになりきる楽しさを感じられるようにしていく

用意した環境

- 準備したもの：製作したお店の看板、食材、メニュー表、テーブル、テーブルクロス、椅子、お金、トング、レジなど

これまでに製作した作品をお店屋さんのテーブルに並べ、食材・メニュー表などを陳列した。紙幣のお金を用意したことで、子どもたちは、現実的にお店屋さんに行った感覚になっていた。

探求活動を実践する

●活動内容

- ・5歳児クラス内でお店屋さんごっこをした。

●子どもたちの様子

- ・製作した作品を持ち寄り、開店準備に必要な工程や準備を考えながら、すすんで行動に移していた。
- ・店員になりきり、やりとりに必要な挨拶や呼びかけを意欲的に行っていた。
- ・お客さん役は、お金を手に取ると、欲しいもの、食べたいものを選び、なりきって伝えていた。生活経験を活かし、支払いやお金の管理を真似たり、考えたりしていた。

保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちは、お店屋さんに向けて協力、準備してきたことが形となり、自信となっていた。製作したものを遊び・活動に取り入れて遊ぶ楽しさを実感していた。
- ・お店の内容や特徴に応じた挨拶、説明などの声が聞かれ、役割ややりとりに適した言葉、口調を自分で考えていること、夢中でなりきっていることが窺えた。
- ・お店を盛り上げるための新たな目標や加えたいものが明確となったことで、より夢中になって遊びを進めていることが伝わってきた。
- ・次回は異年齢児を招待する計画となっている。異年齢児との関わりに着目する。



活動④ ～ 異年齢のクラスを招待し、開店する ～

ねらい：5歳児クラスでのお店屋さんごっこを通して、楽しさを感じ
異年齢の友達を招待して、一緒にお店屋さんごっこを楽しむ

用意した環境

- 準備したもの：製作したお店の看板、食材、メニュー表、テーブル
テーブルクロス、椅子、お金、トング、お皿、レジなど
完成度を高めて、お店屋さんを開店させる。様々なメニュー、食材、
楽しめるゲームがあることを言葉にしながらお客さんを招き入れる。
異年齢クラスの子どもたちが食材を買って、その後食べられるように
テーブルと椅子も設定した。

探求活動を実践する

●活動内容

- ・5歳児クラスが店員になりきり、3、4歳児クラスがお客さんとしてお店屋
さんごっこを楽しんだ。

●子どもたちの様子

- ・異年齢児が楽しんでいる様子を見て、お店を作り上げる喜びを感じてい
た。より一層、なりきって楽しむと共に、気にかけて、優しい言葉をかけ
たりして、異年齢児を楽しませようとしていた。
- ・自身の作品やお店にこだわりをもち、他児の喜ぶ姿から充実感や自信
につながっていた。
- ・異年齢児が参加することで、クラス内での活動時よりも年長児として、グ
ループの友達と協力したり、助け合ったりしていた。協同して遊ぶ楽しさ
や醍醐味を感じていた。



保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちの意見や考えを取り入れてお店屋さんごっこを進めてきた。
イメージを形にしようとしたり、作ったもの、考えたことを遊びに活かそう
としたりする姿から子どもの発想の豊かさを感じられた。
- ・身の回りにある物の仕組みや身近な大人のやりとり（店員、お客さんの
動き、言葉など）について探求する姿につながった。
- ・お店屋さんを盛り上げたい、というクラスの共通の目的に向かって、子
ども一人一人が自分らしさを発揮させていた。その中で、葛藤や気持ち
の折り合い、互いへの尊重を経験しながら友達への信頼感をもって、一
緒にやり遂げようとする姿も見られ、成長を感じることができた。